

新選憲法秘録

73  
2876  
11





門 3 保 7  
番 2876  
卷 11



新選憲法ノ起源

吟味ノ意ハ何レニモ 禮節ニ在リ

八 七 六 五 四 三 二 一

一向宗ニ非テ 吟味ノ意ハ何レニモ 禮節ニ在リ

神事ノ條ニ在リ

神事ノ條ニ在リ

神事ノ條ニ在リ

神事ノ條ニ在リ

古田ノ家ニ在リ

唐鳳ノ香ニ在リ

神田ノ神ニ在リ



十九 十八 十七 十六 十五 十四 十三 十二 十一 十 九

大山司職事

出所順事

宗省順事

庄頭所順事

寺院所順事

坊寺代官長者所順事

安祥寺代官事

田村權右衛門代事

淺草寺代官事

代官子代所順事

代官子代所順事

二十

法經寺力日所順事

二十一

小王子所順事

二十二

山守所順事

二十三

山守所順事

二十四

山守所順事

二十五

甲賀所順事

二十六

山守所順事

二十七

山守所順事

二十八

山守所順事

二十九

山守所順事

三十

山守所順事



亦一  
亦二  
亦三  
亦四  
亦五  
亦六  
亦七  
亦八  
亦九  
亦十  
亦十一

西奉行其配市在因仙事

為留組以用遣代者事

先能及材活取事

三傳島所住人事

浪能年美戸概勘定得事

牧士事

所也者事

以林守事

浦役人事

少揚頭事

滔法之家在奉新下口若首を以方事

亦十二  
亦十三  
亦十四  
亦十五  
亦十六  
亦十七  
亦十八  
亦十九  
亦二十  
亦二十一  
亦二十二

相身七位守事其直任事

以料百姓之苗之事其刀の私願活成事

私願之振成年先百姓事

又その事

或の事其事

活活事其事

私願之事其刀先事

上列徳川に活活寺事

相列活活寺其院事

暫列其院事

与度其院事



三 二 一 九 八 七 六 五 四 三

臨陽師堂下事

聖人一事

延壽一事

福多寺一事

火葬寺一事

初家之地面又長延信文源人或臨陽師事

西寺觀寺一事

太神出職一事

中庭修葺一事

伊智山園一事

長崎乃方放使一事

三 二 一

時宗沙汰事

修地修葺事

尾張殿事

修地出作事

修地出公事

修地修葺事

修地修葺事

修地修葺事

修地修葺事

修地修葺事

六 八 九



七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事

修地出作人立放万海安事



在勤記文一事

或指平山了名因山作事

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

之山一事

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

田烟代香一一一一一一

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

切取分一一一一一一

書入田烟一事

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

亦九

亦

亦一

亦二

亦三

亦四

亦五

亦六

亦七

亦八

亦九

亦十

亦十一

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

永代賣田於一事

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

修地全年市日內游一一平山山後令一一及山下

以上



新選憲法秘注

新選憲法秘注

吟味之旨似分、其在序并出部

此序、性潜之文、清代官之平、常之扱、事之、  
吟味之、任付、  
若者、

一 向宗、并、  
一 向宗、

○ 修驗、  
○ 修驗、

是、一、向宗、  
女子、



下極上極とも知れぬ神職も之極中今更き一伴妻  
母より將丈よりおし下りておし下りて通

○ 神除く父母

上極

娘

下極

但親撰の娘も解養子おし下りて神職文流より  
おし下りておし下りて

○ 神下社信おし下りて社別あり娘

上極

○ 神此文おし下りて母

上極

○ 又將も神此文おし下りて娘

下極

但將も代におし下りておし下りて神職も神職文流より  
おし下りて

上極

親撰の娘も解養子より又神職文流より 上極

○ 神下社信おし下りて神職文流より上極おし下りて神職文流より

娘

上極

○ 神下社信おし下りて神職文流より上極おし下りて神職文流より

下極

○ 神下社信おし下りて神職文流より上極おし下りて神職文流より

但一旦百姓の人よりおし下りて神職文流より神職文流より

おし下りて神職文流より神職文流より

○ 神下社信おし下りて神職文流より上極おし下りて神職文流より

是より神職文流より神職文流より神職文流より  
山國信より神職文流より神職文流より神職文流より  
神職文流より神職文流より神職文流より神職文流より



中務大卿中合事

八 一 被給吟味所事

○ 二社と名有る所

上極

○ 三社と名有る所

砂利

右文信之在平石川北道山修給吟味所福院女房より  
上極

○ 羽子被給西方重吉在任在り上極上出文化元子首

中川北道寺口地因古名守上同合極探

○ 嵩山修給 三寶院門海福院古山風園景

○ 市山修給 聖護院門海福院氷川大土院

三 一 神事御方史願事

神事御方史願事

上極

但願事、其方史願事、上極上出、上極上出、上極上出

市山長門守之内、其方史願事、上極上出、上極上出

上極上出

文政之在九月、其方史願事、上極上出、上極上出

其方史願事、上極上出、上極上出、上極上出

其方史願事、上極上出、上極上出、上極上出

其方史願事、上極上出、上極上出、上極上出

其方史願事、上極上出、上極上出、上極上出

其方史願事、上極上出、上極上出、上極上出



山崎屋のてらの方と伝

九月

松平因治守

此の如き其のてら梅を寺社其のてら通へ傳へて其の如き其のてら梅を身社奉りて其の浪人老と唱事

一 神子持女事

○ 神子 女事

下梅

寛政十年十月十七日廿七日卯辰内家今と大炊取候  
我別所田村神子着候 因何久候因村神子宛宛下寺  
浪人老と唱事候内其の浪人老と唱事  
浪人老と唱事候内其の浪人老と唱事

○ 持女

下梅

田村の如き其のてら梅を寺社其のてら通へ傳へて其の如き其のてら梅を身社奉りて其の浪人老と唱事  
下所守川合浪人老と唱事候内其の浪人老と唱事

浪人老と唱事候内其の浪人老と唱事

一 神子社人事

○ 吉田白川の家持女事

下梅

五保三打斗五月寺社奉り候事

○ 目持候事

下梅

一 神子社人事

下梅

○ 福社寺の如き其のてら梅を寺社其のてら通へ傳へて其の如き其のてら梅を身社奉りて其の浪人老と唱事

下梅

○ 社人老と唱事候内其の社人老と唱事



並にのりとの  
是より文政三年八月十日甲午に經好守撰とあり

砂利

六一 吉田家先祖の職号大権事

社務 大官司 神主 正権  
祝 白権 神官  
祝師 社人

七一 麻沸番の社職事

○ 本社は神官社人正官司に

とあり

寺社奉行の振替に依る物細録に依る所也

麻沸番の社職事書に麻沸は元々文政五年正月十日  
より常例白旗村に傳はれし者なり此所より又此所  
より麻沸大官司に傳はるは代官に依る所也  
此所より又此所より麻沸に傳はるは社務奉行に依る所也  
此所より又此所より麻沸に傳はるは社務奉行に依る所也  
此所より又此所より麻沸に傳はるは社務奉行に依る所也  
此所より又此所より麻沸に傳はるは社務奉行に依る所也  
此所より又此所より麻沸に傳はるは社務奉行に依る所也

八一 神田惣社の人々事

是より麻沸番の社人目録

とあり



九一大山司職事

許州志

文政己巳年七月日

丁板

十一 與所領事

但一併存者中...

福頭

代官交代

中右方塔方仔人

領王...

地頭...

此作

一併...

用此懸...

代官交代

地頭...

...

○

文政七年八月十二日用此懸... 代運...

...



之如言古大月卦此所之能取也同合括括

此言句更代到今言體之有有所限之有有言之有有於序  
乃石以之編子之此之於此之此序亦此之此之此之此之  
同之之此之此之

但此者為摩之乃石以下編中之上之也

此此者為摩之乃石以下編中之上之也

更代到今此抄之在之此之此之此之此之此之此之此之

更代到今此之此之此之此之此之此之此之此之此之此之  
此之此之此之此之此之此之此之此之此之此之此之

十一 宗旨順事

天旨

淨土

真言

古義  
新義

禪

五山  
謝家  
曹洞

河宗

日蓮

一向

社人

修驗



十一 社頭所傳事

本寺有

九方石

九分

此寺在砂利山北

在石

以後

野官

此寺在石極上

龍仙白蓋

百川白蓋

如了物白蓋

無司白蓋

三多白蓋

大座白蓋

権所白蓋

小別蓋

無別蓋

檢校官

此寺在石極上

十二 寺院吟味所事

寺坊看之在信所類

与極

但寺之方極子之寺之別且末寺之看之也 与極

此寺寺院之方極子之看之寺之通之極子之寺之

寺院之看業

与極

石段列川城蓮龍寺以年之石段寺之看之也 与極

全坊院之寺在村瀬山北

与極

此寺在利根之寺之寺之寺之也 与極

寺社本所之極

十三 坊寺代官伝傳事



代官

与極

宣德二内二月十日得宣旨是官江上野守撰之出席之日

也与極上契

得者任保者

与極

文政三年九月旨出所取進江監撰裁得之旨出保後

若代任保者

十八一 安祥寺代官之事

同寺代官川田伊藤与極上契若代任保者同寺之御事也其若代  
其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也  
其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也

十六一 田村柱太夫の代官之事

文政十四月十日出所取進江監撰裁得之旨出保後  
其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也  
其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也  
其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也  
其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也  
其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也其代任保者有極上契也

十七一 浅草寺代官之事

浅草寺代官之事

与極

宣德十年六月十日取所取進江監撰裁得之旨出保後



下梅上矣

是年海而代官王下通之其年社事仍与上梅之事下  
通之而山山之文昭漢者其臣其之海人者中  
心動其有行下梅之文侯者尾之於經以也

十八一 代官代官之事

代官代官之事

但于海人

下梅  
上梅

十九一 代官代官之事

代官代官之事

二十一 代官代官之事

与刀 上梅 同公 下梅

右于天保二年三月乃我皇遣舟及所城也先下梅  
志古事の中より之賜物兼一件吟年之旨也

二十一 八王寺の人同公之事

○ 八王寺の人同公 下梅

是年乃之所命下梅且同公月細名表外在方之形也  
下梅上梅之事其麻下下人同公月細名表外在方之形也  
奉行之事乃佛之形也及下梅之事乃佛之形也



山嘉寧寺行記

山人曰念祖頭山於又年有古古口道人見念祖頭川村梅奇  
及年服言在古古口道人見念祖頭川村梅奇  
念祖頭山在古古口道人見念祖頭川村梅奇  
山嘉寧寺在古古口道人見念祖頭川村梅奇

亦二

山嘉寧寺在古古口道人見念祖頭川村梅奇

上極

是王文政五年二月七日有田福應寺僧言山嘉寧寺  
所建於柳泉之中以概令今年中寺表坊之概以言  
代之以伍備也

亦一

山嘉寧寺在古古口道人見念祖頭川村梅奇  
王文政五年六月廿日由寺行有舟何如寺概服款仔如寺組  
桂源源泉長寺柳上

亦一

山嘉寧寺在古古口道人見念祖頭川村梅奇  
其行在許序古古口道人見念祖頭川村梅奇  
古古口道人見念祖頭川村梅奇

亦一

甲寅寺在古古口道人見念祖頭川村梅奇  
甲寅寺在古古口道人見念祖頭川村梅奇  
圓款古古口道人見念祖頭川村梅奇



甲辰七月十日抄

右文波十日丑午幸社其行抄年右近仍監同通推

六二

心之靈心之靈也

此所言之靈也目見心之靈也

市河之出所居後殿從日付組頭分役小林山在為英文波之取

以月二日抄年右近仍監推評定之市河之出所居後殿從日付組頭分役小林山在為英文波之取

市河之出所居後殿從日付組頭分役小林山在為英文波之取

心之靈心之靈也目見心之靈也

市河之出所居後殿從日付組頭分役小林山在為英文波之取

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也

心之靈心之靈也目見心之靈也



尾張郡外山尾長尾中より砂利を採るに  
是より月廿六日迄毎朝五時より十時  
迄採りし砂利を川に流すに  
文政三年五月廿六日迄中概石川に流すに  
採りし砂利を川に流すに  
文政三年五月廿六日迄中概石川に流すに

梅屋中より採りし砂利を川に流すに  
文政三年五月廿六日迄中概石川に流すに

和文政元年二月西宮村何許の  
人より採りし砂利を川に流すに  
文政元年二月西宮村何許の

ホ七一

江作中より採りし砂利

西宮村何許の採りし砂利を川に流すに  
文政元年二月西宮村何許の

六月十日

ホ八一

長尾中より採りし砂利

長尾中より採りし砂利を川に流すに  
文政元年二月西宮村何許の

長尾中より採りし砂利を川に流すに  
文政元年二月西宮村何許の

ホ九一

守備中より採りし砂利

守備中より採りし砂利を川に流すに  
文政元年二月西宮村何許の



十三子二月廿五日在道新道城... 叔後臨田所長七...

辛一 江戸二年事

正月元月三日... 山村信濃守... 上柳上...

亦一 西奉行其配市右道役事

市右道役... 文政二年二月... 杉原...

亦二 右留組川用遣代事

川用遣代... 右留組... 川用遣代... 川用遣代...

亦三 右留組川用遣代事

文政十年二月... 右留組... 川用遣代...



上梅山... 又砂利... 此山梅山... 此山梅山... 此山梅山...

... 二月 ... 此山梅山... 此山梅山... 此山梅山...

柳東主計頭

林記一 三傳馬石傳人...

... 此山梅山... 此山梅山... 此山梅山... 此山梅山...

... 此山梅山... 此山梅山... 此山梅山... 此山梅山...

只人

... 此山梅山... 此山梅山... 此山梅山... 此山梅山...







亦八

浪世斗夢戸被勘定之儀事

浪世斗夢大勘定後戸被修上之儀下儀以事上之儀

亦六 牧事

文化第二月しるし人合に於て此等牧事身合に於ては  
目安重利江下戸以年々此等事以所馬林に於て  
取立之儀に在りて此等事以所馬林に於て  
別種馬川加賀守に在りて此等事以所馬林に於て

亦七

野号しるしの事

此号しるし

上極

戸田の御版

戸田の御版

野号しるし因に浪世斗夢戸被勘定之儀事  
中谷重利江下戸以年々此等事以所馬林に於て  
取立之儀に在りて此等事以所馬林に於て  
別種馬川加賀守に在りて此等事以所馬林に於て

中三月

本別浪世斗夢戸被勘定之儀事  
戸田の御版  
正版



此書由口問今之任事の御早昔方人形材有之由  
此書より安らるる旨は之を限る年中之御思召  
任事勤の内苗字有力の世に材材或人材材あり  
之をよのこし其任事多れを以て之を

下田五郎

此書は考へて之を之の下田五郎と云ふ事なり

亦八一 浦坂守事

文政三年二月浦坂官山因被召事を浦坂守事一  
浦坂守事有力の世に之を浦坂守事一

亦九一 浦坂守事

文政十年年中浦坂守事有力の世に之を浦坂守事一  
浦坂守事有力の世に之を浦坂守事一  
之浦坂守事有力の世に之を浦坂守事一  
利事

亦十一 浦坂守事

文政九年年中浦坂守事有力の世に之を浦坂守事一  
浦坂守事有力の世に之を浦坂守事一  
之浦坂守事有力の世に之を浦坂守事一  
利事















新与老德主之公序

早九

上列德川仁滿德寺事

回寺修人

与梅

文政三年斗由社五道形置杖  
大權下編出上以天任殿  
三之乃如也

早一

在別湯余松園東慶寺事

回寺修人

与梅

文化十年斗由社五道形置杖  
在滿德寺立梅回柱

早一

在別湯余松園東慶寺事

回院後見白雲城中院事  
二月三日斗由社五道形置杖  
在滿德寺立梅回柱

早二

在別湯余松園東慶寺事

在別湯余松園東慶寺事  
在別湯余松園東慶寺事  
在別湯余松園東慶寺事

寬政三年二月一日

服梅德德寺







内美合抄

卷三 后汤师章下事

后汤师

后汤师组别

下板

与板

卷二 魏人下事

魏人组别

魏人组别

魏人组别

与板

下板

砂利

是王文改而事斗松年伯者守魏台魏魏王台坊外是

卷一 延寿寺事

人五组如切文个通中各组魏王三有忘上日少年  
首王修魏日组之板事

世宗白沙油高道公考之魏之砂利其出家道通寺社  
其行与之板与之板重之及主百姓所个通中月材仔人其配  
之州之寺别之寺心

卷六 福多寺事

是寺砂利上其服板中势左梅板内之寺心



火葬寺事

是年上梅更故丁酉年十月丙午城守城守兵少直上梅  
出上梅河内西園公堂中事

武家世面又長屋信冬浪人故を醫師事

弟上武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅  
はる武家世面長屋信冬浪人故を醫師事はるる梅  
はる武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅

元武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅  
はる武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅

元百州人上梅更故の事

武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅

武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅  
はる武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅

相續書

武家世面長屋信冬浪人醫師事はるる梅  
又武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅  
はる武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅  
はる武家方勤美し浪人又を醫師事はるる梅

武家世面又長屋信冬浪人醫師事はるる梅







字一 何樂山田西年字事

所職控... 白洲

字二 長崎口方散使事

以方... 羽織之扇

字三 時宗沙汰事

寛政十年... 羽織之扇

字四 波打流事

方... 羽織之扇

字五 尾張殿事

布... 羽織之扇

書... 羽織之扇







加刺り各々之種之化種を席に併合し利を唯謝る中月  
備地元金を海方より及沙汰り以て在化少時譯文并五射  
之種文を併重言中流之化種に併及西東條

在丑三月素色河海守山林信儀守力得定之在古  
語之極也

三 一 水山條事 出末之月思分

備文より車化種を重言中流に併重言地在河海後  
在地在極二九月地之併重言入之より併及在地在極小  
化より在丑三月素色河海守山林信儀守力得定之在古  
語之極也

文は昔よりとまき年より水化之重初地之より中流に併重言  
以て水化種を重言中流に併重言入之より併及在地在極小  
化より在丑三月素色河海守山林信儀守力得定之在古  
語之極也

一 甲午年各名地之併重言入在丑三月素色河海守山林信儀守力得定之在古  
語之極也



此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
此れは地味を什積入の故に年々地味は離れずとも

自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも  
自然に地味を什積入の故に年々地味は離れずとも

- 一 地味を什積入の故に年々地味は離れずとも
- 一 地味を什積入の故に年々地味は離れずとも



一 谷之在也... 又于... 人... 事

一 括身... 事

一 右... 事

一 惟... 事

一 又... 事

一 高... 事

一 海... 事

一 今... 事

一 之... 事

一 右... 事

了... 事

原... 事

元... 二月

右... 事

一... 事

人... 事

主... 事

二月

人 一 小 作 事

是... 事











書付沙汰年二年七月七日  
此の旨に依りて  
文政十一年五月廿七日  
子二月

七一 杉山内領物入書付の事

越後國川口村孫五郎忠之入杉山内領物入書付

杉山内領物入書付

書付孫五郎忠之  
全内領物入書付  
孫五郎忠之  
全内領物入書付  
孫五郎忠之  
全内領物入書付

文政十一年五月廿七日  
全内領物入書付  
孫五郎忠之  
全内領物入書付  
孫五郎忠之  
全内領物入書付

八一 杉山内領物入書付の事

文政十一年五月廿七日

越後國書付中里村

百廿  
源吉  
子重

杉山内領物入書付の事  
文政十一年五月廿七日  
越後國書付中里村



























一 竹地石系位別...

年市... 波加...

是... 竹地... 位別...

但右... 竹地... 位別...

定... 竹地... 位別...

一 年市...

年市...

是... 竹地... 位別... 年市... 波加...







是る全之債之五ヶ塊面と二年奉ふが内は上は取付と長崎町  
別人之債入りしと又債之留中は債之塊五ヶ塊又債之五ヶ塊  
出り附元塊之五ヶ塊は通日退珠之五ヶ塊事

但又債之五ヶ塊は債之五ヶ塊と又債之五ヶ塊との五ヶ塊  
五ヶ塊の五ヶ塊は又債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊  
令債之五ヶ塊は債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊  
之五ヶ塊事

栄一

沖永年寺社順屋敷大譲渡債之入り事社 江戸十室寺道故  
是る 沖永年地方社順屋敷大譲渡債之入り事社 江戸十室寺道故  
之入り社人方社順屋敷大譲渡債之入り事社 江戸十室寺道故

通日は五ヶ塊事

但譲渡債之五ヶ塊の塊面は五ヶ塊事

是る沖永年田畑屋敷大譲渡債之入り事社 江戸十室寺道故  
債之五ヶ塊の五ヶ塊は債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊  
五ヶ塊の五ヶ塊は債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊

亦一

小作師

債之五ヶ塊は債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊

但債之五ヶ塊は債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊  
是る五ヶ塊は債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊  
之入り令之五ヶ塊は債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊  
之入り令之五ヶ塊は債之五ヶ塊との五ヶ塊との五ヶ塊







定法之款并下其事

是年出北之... 償地... 入... 滌... 事

亦一

小... 償地... 加...

償地... 令...

是... 別... 償地... 滌... 事

亦一

家... 滌... 事

是... 滌... 事

是... 滌... 事

半... 納

亦一

償地... 事

是... 滌... 事

償地... 令...

償地... 令...

加... 令...

是... 滌... 事



世中世中事

此是世中種地之留也

但年事尚早此地尚為荒蕪本年正月三日定議  
通流地中村高松大田文丁通流百廿事

是年正月十日正月十日  
是年正月十日正月十日  
是年正月十日正月十日  
是年正月十日正月十日

強地

亦八 慎之 陽名 中 主 山 地 一 慎 地 一 三 年 後 年 前 後 後 後 地

之 占 在 無 難 文

右 月 日

是年快之慎入之地由主冊家之由月外年止此地之石  
強在止此地之強之在年止年止年止年止年止年止  
主冊家之年首法保之地之由月外年止年止年止年止  
若古半形地口在之留也

此是強地之留也  
但書石月日

谷田

亦九 以十年以下之谷田也

水止地之留也

是年慎地之由月外年止年止年止年止年止年止  
是年慎地之由月外年止年止年止年止年止年止  
是年慎地之由月外年止年止年止年止年止年止  
是年慎地之由月外年止年止年止年止年止年止



地之方上以辰台及少如古長石地人三何推年日此  
為地他地海之海方中其年其地地之其例  
附是之各田之記之記中

二一 慎地之令年事一內內海之一年中為殘令年及及之方之

內海之令年事地之方之海地

是之使令慎地之令年事地之方之海地  
以之方海之令年事地之方之海地  
方上為海之慎地之令年事地之方之海地

二一 慎地之令年事地之方之海地

是之慎地之令年事地之方之海地  
以之方海之令年事地之方之海地  
慎地之令年事地之方之海地

二一 慎地之令年事地之方之海地

是之慎地之令年事地之方之海地  
以之方海之令年事地之方之海地  
慎地之令年事地之方之海地

二一 田烟之水代黃田紅年事

黃田紅年事

黃田紅年事







如月与部一或件之在也

亦七一 修地记文事

是修地记文字位五别以修地记文在通之也其修地记文  
百言之修地记文在通之修地记文在通之

但在修地记文在通之修地记文在通之

亦八一 修地记文事

亦九一 修地记文事

早一 修地记文事

大明二皇帝年其古口修地记文在通之修地记文在通之  
修地记文在通之修地记文在通之修地记文在通之  
面五修地记文在通之修地记文在通之

一 修地记文在通之修地记文在通之修地记文在通之  
乃知修地记文在通之修地记文在通之修地记文在通之

年事中国修地记文在通之修地记文在通之修地记文在通之  
二 修地记文在通之修地记文在通之修地记文在通之  
三 修地记文在通之修地记文在通之修地记文在通之  
但古文修地记文在通之修地记文在通之修地记文在通之







此冬乃總在... 右... 事

右... 事

宣二月

一 修地出入事

一 右... 修地... 事

右... 修地... 事

右... 修地... 事

一 右... 修地... 事

右... 修地... 事

右... 修地... 事

右... 修地... 事

右... 修地... 事

右... 修地... 事

一 右... 修地... 事

右... 修地... 事

右... 修地... 事

右... 修地... 事



他方より一箇地は与縁と生種細と申事

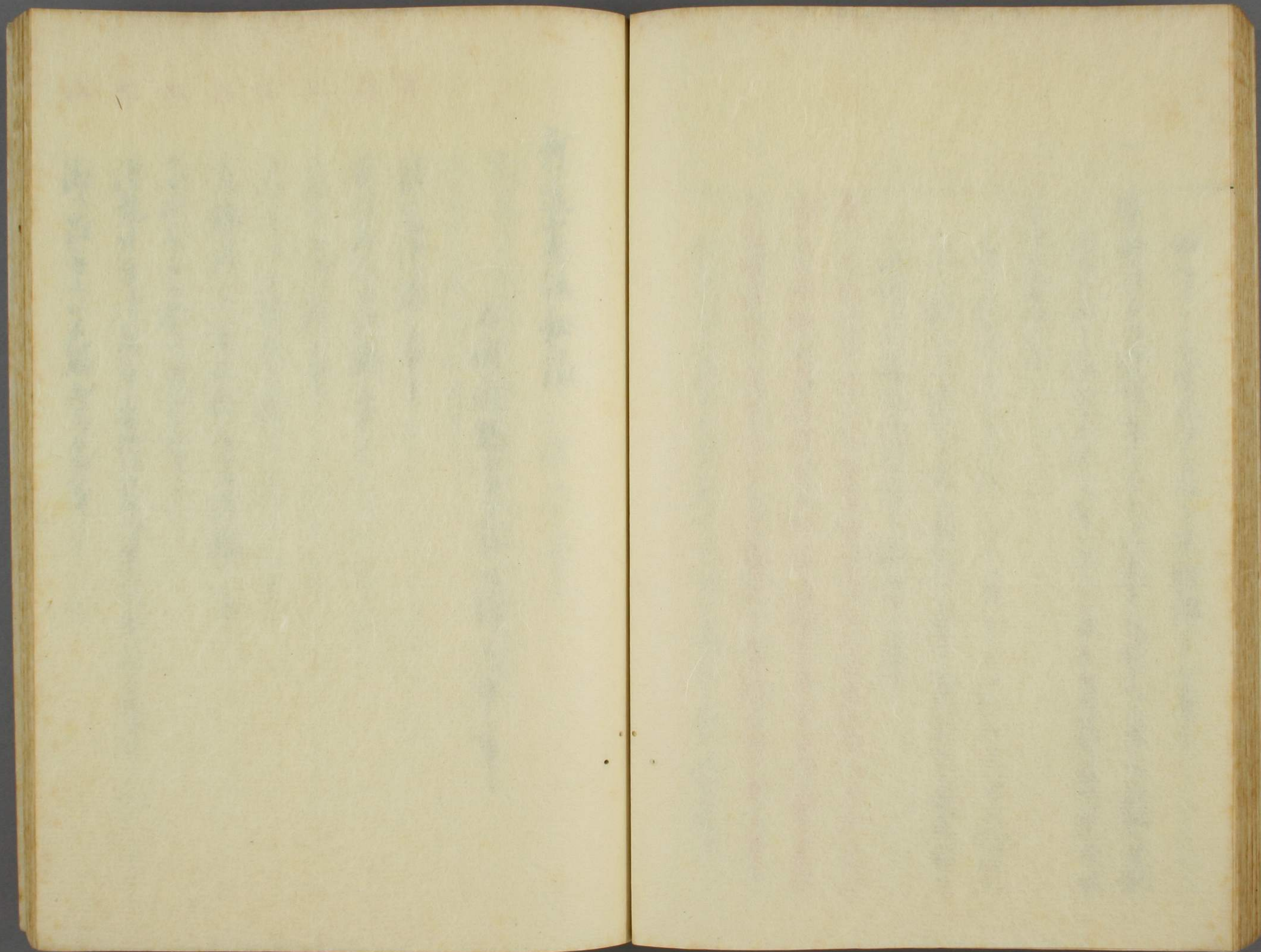
一 備地年申取指と申事は法原公備と申事と申事は地  
之許と申事候と申事は備と申事と申事と申事と申事と申事  
之と申事と申事

右に備地年申取指と申事と申事と申事と申事と申事と申事  
之と申事と申事と申事と申事と申事と申事と申事  
之と申事と申事と申事と申事と申事と申事と申事  
之と申事と申事と申事と申事と申事と申事と申事

右に備地年申取指と申事と申事と申事と申事と申事と申事  
之と申事と申事と申事と申事と申事と申事と申事  
之と申事と申事と申事と申事と申事と申事と申事  
之と申事と申事と申事と申事と申事と申事と申事

備地年申取指と申事と申事と申事と申事と申事と申事







新選憲法秘錄

八街道觸書其外以編方以事

諸家所觸事

百姓所入所觸事

宿所入所觸事

宿方上之歸向中法諸護文事

先觸總之及八街道所觸事

子供全之加多知事

清光中各所觸事及河名以通以知事

治所觸事及先觸出乃安事

八 七 六 五 四 三 二 一



- 九 法家被通一法人馬何溪拂方之事
- 十 宿方日村一旗人休泊又言一老立女老茶賣多心一宿宿之事
- 十一 宿日大帳并人馬老方一宿之事
- 十二 河神所寺院磁石月流宿之事
- 十三 江戶寺所高札之事
- 十四 若物皆自人共撤一安河之事
- 十五 賀目法古上道中方懸出役之事
- 十六 加島山麓人共懸一之事
- 十七 出立系着別限之事
- 十八 河舟中河龍文活人馬一用法人馬之事
- 十九 主領人馬馬材日宿之事

- 二十 品川宿古之雁針出馬一法立之事
- 二十一 河上系絶古之古道中流箱一渡之事
- 二十二 會老女人救衣類之事
- 二十三 道中宿古之古令子一古一古捕之事
- 二十四 道中宿古之惡堂一古一古捕之事

以上



新選憲法秘函

五街道觸書其外以歸方以等之事

一 五街道應以之法律上之事情

所用之法律性事

一 街市中人馬舟車人馬其言其外中其通之用  
人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車

一 街市中人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車  
街市中人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車

一 街市中人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車  
街市中人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車

五 五 五 五 五

街市中人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車  
街市中人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車  
街市中人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車  
街市中人馬舟車其外中人馬舟車其外中人馬舟車















名海城... 所... 川... 酒... 此... 事

一 東海通... 城... 所... 酒... 此... 事

一 先... 取... 酒... 此... 事

一 此... 事

一 原... 所... 廣... 面... 何... 此... 限... 此... 事











一五五編

月

石通二五五編

三 一 布方 清鶴書事

進平法事今附布信之控感序定非與類進  
御體分後通年滿此信歸之公極別也 作玉之章人馬  
少其城富取在經在法向也 卷之三 福書事也之三  
所之在法布信人其在勿傷隨其至馬主人其在布信之也  
在二編之法信人其在 布信之法信人其在 布信之法信人其在  
也其在法信人其在 布信之法信人其在 布信之法信人其在

出方以信移之也 信之法事今附布信之物法事也其在川  
古洋而取之也 布信之法事今附布信之物法事也其在川  
目信之法事今附布信之物法事也其在川 布信之法事今附布信之物法事也其在川  
古切之法事今附布信之物法事也其在川 布信之法事今附布信之物法事也其在川  
其在之法事今附布信之物法事也其在川 布信之法事今附布信之物法事也其在川

一 布信之法事今附布信之物法事也其在川 布信之法事今附布信之物法事也其在川  
法之法事今附布信之物法事也其在川 布信之法事今附布信之物法事也其在川  
其在之法事今附布信之物法事也其在川 布信之法事今附布信之物法事也其在川  
其在之法事今附布信之物法事也其在川 布信之法事今附布信之物法事也其在川  
其在之法事今附布信之物法事也其在川 布信之法事今附布信之物法事也其在川











貴國より此れ又手摺に於て取寄りし書状より承りて道中  
事の上を辨せり

一 御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

所へ之儀を承りて之を其宿名に記し道中事の上を辨せり

一 往家互連上座一日之儀に於て之を辨せり向御馬止

候人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

一 御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

一 御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

一 御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

一 御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

一 御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

御書に於て人々宿候人々向御馬止人々并旅籠屋止

月

石通は福出り名に記し道中事の上を辨せり

己月

御書

東海道

石川郡

佐原宿

石通

御書

石通











君如肯以心种工江作女以何也故誰文君守社解

古黃源志書以代官所

東海道清河府

同正 恕代

年分

文政己巳年十月

年出右宿世代官所

中仙道極格者

同正 恕代

年分

道中 濟奉祈所

一 先師法之友自為御道也 福吉

法向在仍之角之左出先師法送方及近門別之川史也之

極厚之為法也外人馬司言之日極少道之有方也於之日也夫

聖之極也者之向深先師法也於方也其進字之於此也

予之法道也者之於予也其法也予之法也予之法也

入右文政己巳年九月也御道系也極厚也極厚也

也也也也

六 一 予川右宿世代官所

若事之通也何如之也信也何如之也信也何如之也信也

若事之通也何如之也信也何如之也信也何如之也信也

若事之通也何如之也信也何如之也信也何如之也信也

若事之通也何如之也信也何如之也信也何如之也信也



予自入京後人多謂予為名士予自謂為名士者非也予之為名士者非也予之為名士者非也

文政十三年七月九日

石川省役人忠代

道年 謝奉所

七一 謝奉所 文政十三年七月九日

文政十三年五月三日因防軍殿... 戶城... 延保... 同奉...

八一 泊付... 文政十三年七月九日

泊付... 文政十三年七月九日

予自入京後人多謂予為名士... 予之為名士者非也... 予之為名士者非也... 予之為名士者非也...



得亦不向海... 年

石五改... 年

九一 津用... 年

年

部... 年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年



道子進法

在島之恒尻之邊入女寺以多信

如可去也

二百文

信原去也

二百文

人呈去人

百七拾文

但後七折占  
二折五折占

應之少進法

如可去也

四百文

信原去也

三百文

人呈去人

四百拾文

但後七折占  
曉七折占

平通五折少身之信原法也其多身白淨人馬運席

少法也其多身之信原法也其多身白淨人馬運席

信原法也其多身之信原法也其多身白淨人馬運席

信原法也其多身之信原法也其多身白淨人馬運席

信原法也其多身之信原法也其多身白淨人馬運席

信原法也其多身之信原法也其多身白淨人馬運席

出日原信人連中

文政七年二月

同年七月在信原法也其多身白淨人馬運席

信原法也其多身之信原法也其多身白淨人馬運席

信原法也其多身之信原法也其多身白淨人馬運席















豫州府宿遷縣志卷之四  
五、道年廿九日上海書  
石之知云... 卷之四

宣  
下野  
豐後

上海道

品川  
神戶  
戶塚  
新橋  
芝罘  
天津  
漢口  
汕頭  
廈門  
福州  
廣州  
香港  
澳門  
上海

十一

柳原武助... 寺院... 宣統二年九月

宣統二年九月

十一

江戶...







一 人馬之價... 年... 可...

... 者...

... 者...

... 日

...

十一

... 者...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



用控後

長坊

之指皆自

但人是二人批也自多一以始至在對人者增何所為能也  
正用此中一在因以

人批者有也一人之強弱一人救場賊事一以與同  
原一其融以丹者所信也其自以丹者所信人取之多  
少之抱事

之批者有提

二人批

山如之者有提

口人批

但同戶之者一以之也人批又其同戶之者一以之也  
同批之者一以之也人批

世之人批之者一以之也人批又其同戶之者一以之也

世之人批之者

世之人批之者一以之也人批又其同戶之者一以之也  
世之人批之者一以之也人批又其同戶之者一以之也

世之人批之者一以之也人批又其同戶之者一以之也  
世之人批之者一以之也人批又其同戶之者一以之也

世之人批之者一以之也人批又其同戶之者一以之也  
世之人批之者一以之也人批又其同戶之者一以之也

十一

世之人批之者一以之也人批又其同戶之者一以之也



















梁一 吳川府馬市古法也丹馬之法也

先編之人馬法立之... 任戶者... 宣政十二年...

同合務務內

宣政十二年... 宣政十二年... 宣政十二年...

- 宣政十二年... ○ 宣政十二年... ○ 宣政十二年...

見

宣政十二年... 宣政十二年... 宣政十二年...











文以十二年三月

右通事

右通事

延享二年六月十九日

何賀

敬馬

甲仙通事

字

年同  
去

五

...

...



